

1971年8月7日第3種郵便物認可（毎月6回）1の日・6の日
2013年11月25日発行SSKA増刊通巻第8102号

SSKA

全国パーキンソン病友の会会報
茨城県支部だより

2013年11月25日発行[第93号]



神峰公園の紅葉(日立市)

全国パーキンソン病友の会茨城県支部

〒301-0856 茨城県龍ヶ崎市貝原塚町 3552-6

TEL&FAX 0297-64-3546

郵便振替口座 00300-4-38042

Eメール yasuhisa.u@hb.tp1.jp

目 次

◎	目次	2
◎	巻頭言	3
◎	第 28 回一泊旅行患者・家族の交流会の報告	4
◎	一泊旅行に参加して	7
◎	大子温泉『やみぞ』旅行に参加して	8
◎	秋の一泊旅行に参加して	9
◎	平成 25 年度第 1 回県南地区交流会を開催して	10
◎	《体験発表》病歴 11 年とりハビリ入院の事	13
◎	《体験発表》私のパーキンソン病歴	15
◎	誌上作品展のご案内	19
◎	事務局からのお知らせ	19
◎	誌上作品展 《短歌》	20
◎	誌上作品展 《写真》	21
◎	誌上作品展 《自由詩》	22
◎	誌上作品展 《書》	23
◎	誌上作品展 《紙粘土細工》	24
◎	誌上作品展 《切り絵》	25
◎	編集後記	28

巻頭言

“難病患者月負担 2 万円” 厚労省方針 医療費上限を軽減

厚生労働省は、難病患者の医療費助成制度見直しに関し、患者の 1 ヶ月の負担限度額を最大 2 万円程度とする方針を固めた。10 月末にまとめた素案で最大 4 万円超とした限度額を引き下げ、患者の経済的負担を軽くするものだ。同省は 2015 年 1 月からの新制度実施を目指しており、政府・与党内の調整を経て、14 年の通常国会に新法を提出したい考えだ。

これに関連し、田村厚生労働相は 24 日、訪問先のソウル市内で記者団に対し、素案で年収に応じ 6 段階に分けた負担限度額について、「上限は自立支援医療制度並みにしていくことで最終調整している」と述べた。自立支援医療制度は、障害者の 1 ヶ月の医療費負担限度額を 2,500 ～2 万円（生活保護世帯は免除）と定めている。田村氏の発言は、これと同様に、難病患者の医療費の負担

限度額も最大 2 万円程度としたい意向を示したものだ。

厚労省が先にまとめた難病患者支援の素案は、医療費の助成対象とする難病を現在の 56 から 300 程度に拡大する一方、これまで全額公費負担だった重症患者にも一律 2 割の自己負担を求め、支払限度額を月額 3,000～4 万 4,400 円（生活保護世帯は免除）とした。

厚労省は今後、筋委縮性側索硬化症（ALS）など重度で治療が長期にわたる場合については、更に負担を軽減する方法で検討する。症状が軽い患者についても、長期治療を続ける場合には助成の対象とする。自己負担割合は、素案通り、2 割とする。難病対策の財源は 14 年度の消費税率引き上げ分から 300 億円を充てる予定だ。

（読売新聞 11 月 25 日掲載より）



第 28 回一泊旅行患者・家族交流会の報告

事務局長 植本純代

◎ 概要

日時 : 平成 25 年 9 月 29 日 (日) ~ 30 日 (月)
場所 : 太子温泉 『やみぞ』

◎ スケジュール

1 日目 (9 月 29 日)	2 日目 (9 月 30 日)
10:00 送迎バス水戸駅南口出発	7:30 朝食
11:45 『やみぞ』到着	9:30~11:00 レクリエーション
12:30 昼食	グランドゴルフ・卓球
13:15~16:00 患者・家族交流会	囲碁・将棋・話し合い
16:00~17:50 自由時間	11:30~12:30 リンゴ狩り・昼食
17:50~20:30 記念撮影、宴会	12:30 解散
21:00~23:00 支部長の部屋で話そう	バス水戸駅南口へ出発

今年の一泊旅行は昨年同様に 10 月にしたいと思っていました。5 月の役員会で最近の『やみぞ』は利用者が多いとテレビで放映されていたと聞きましたので、役員会の翌日にすぐに申し込みました。すると 10 月は 35 名の申し込みは出来なくて、9 月 29 日~30 日が確保できました。

『やみぞ』には部屋割り、会場、レクリエーションの場所や道具の借用、バス他、いろいろと何回かの連絡をとっていました。三週間ぐらい前にも確認の連絡をしたら、今年の 4 月から経営者が変わり、一般の旅行会社と同じくキャンセル料

が必要であるという事を聞いてびっくりしました。なるべくキャンセル料がかからないようにと念じておりました。また、参加者の皆様からの返事の葉書を見ましたら 5 室しか確保していない洋室の希望が多くて、急遽 4 室追加しました。ところがそれ以上の空室が無く、とれませんでした。それでも最終には役員の吉田さんをお願いして和室に代わってもらいどうにかおさまりました。

交流会も皆様から薬の話、幻覚、腰痛、リハビリ、筋トレなどいろいろな話が出ました。

5時50分に記念撮影をして、その後宴会です。吉田さんの司会に始まり、宮部さんによるビンゴゲームを行い、それが終わると、竹内さんのお世話でカラオケが行われました。カラオケは皆様お上手に歌いこなし無事に終わりました。

その後、9時から「支部長の部屋で話そう」という事で行いましたところ最近入会された方々が多く来られて11時過ぎまで話に花が咲きました。

2日目はレクリエーションです。グランドゴルフ、卓球、囲碁、将棋、

話し合いと5つに分け各自希望のところで楽しみました。

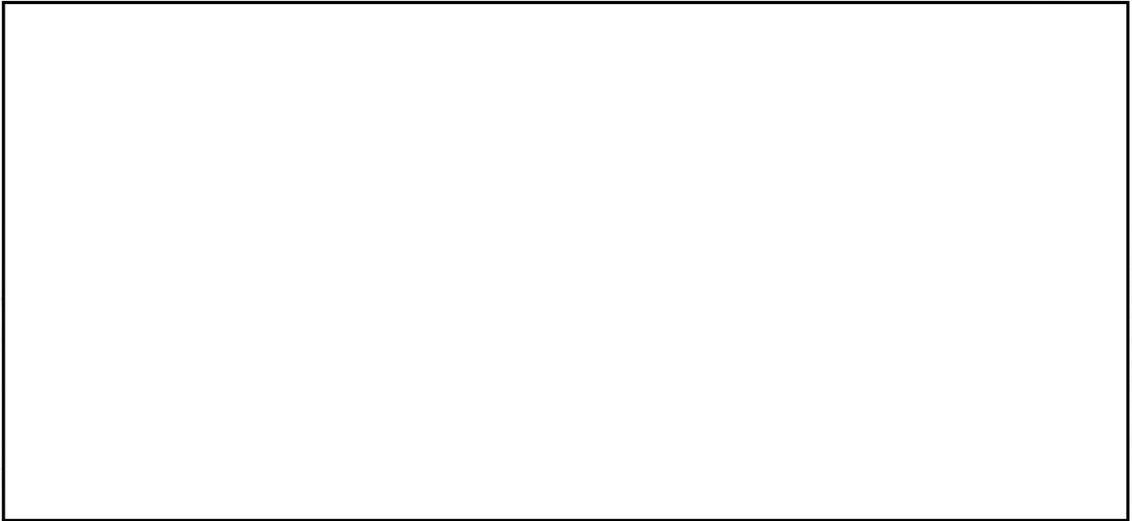
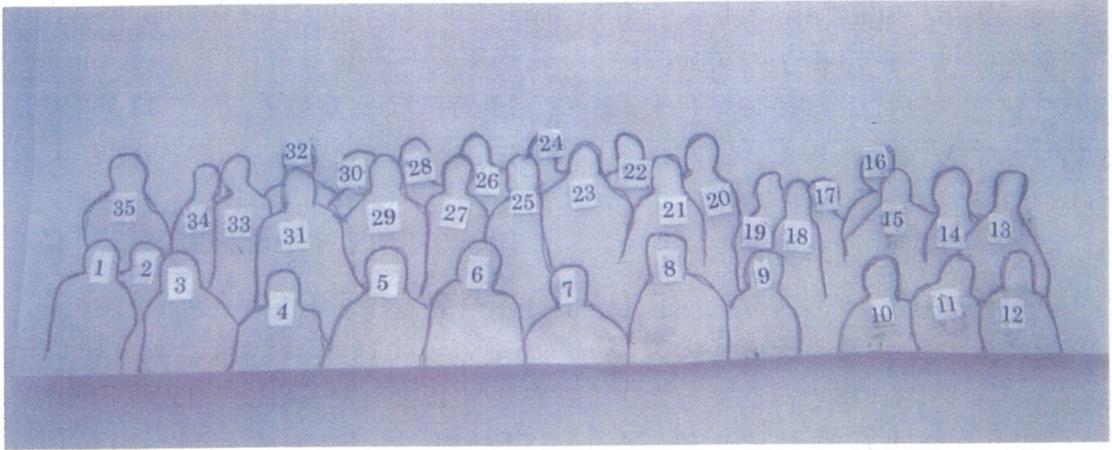
11時になって終了して、11時30分に出発してりんご狩りへ行きました。

今年もりんご狩りの所でおにぎり弁当を食べました。お茶の用意をしてもらえなくて皆様にご不便をおかけしました。そして12時30分に解散してバスも水戸駅へ出発しました。

皆様のご協力のお陰で、事故もなく終了出来ましてありがとうございました。



参加者全員の記念撮影



グランドゴルフ



卓球

一泊旅行に参加して

那珂市 寺門正次

今年もまた お馴染の太子町『やみぞ』で一泊交流会が行われ、私も参加させてもらいました。お天気、気候とも絶好で楽しい会が予感されました。早く着いてしまい、支部長さんと将棋を3局。やがて続々と参加者が到着して、みんな揃っての昼食。又馴染の無い方達との出会いではありましたが、美味しいお蕎麦に舌つづみ。

午後の交流会では、普段困っていることや工夫していることなど皆さん全員が一言ずつ発言されました。最も多かったのが「幻覚」の問題でしたが、「腰痛」「筋トレ」等についてもかなり突っ込んだ話し合いが持たれました。マイクを回したので患者さんも話しやすかったようです。

夜の支部長さんの部屋での話題もこれが中心でした。私たちは医者ではないので結論的なことは出せませんが「幻覚」の中味と病状との間に関連があるようだ、ということは納得がいったようでした。

休憩、入浴などの後、記念写真撮影、宴会です。宮部さんの軽妙な進行で「ビンゴゲーム」が行われ、全員が奥久慈みやげをゲット。美味しい料理を頂きながらカラオケタイ

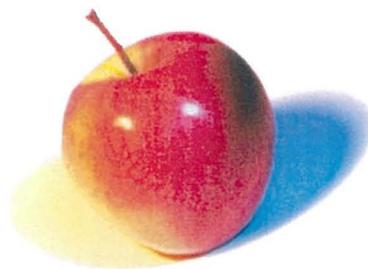
ムも盛り上がりました。皆さんとても見事な歌声を披露され、普段の精進ぶりが。本当に楽しいひとときで、担当の竹内さんご夫妻に感謝。

終了後、支部長さんの206号室には14~5人が集まり前述の話題で11時過ぎまで話に花が咲きました。実に有意義に感じました。

2日目は、バイキング料理の朝食後、レクレーションです。グランドゴルフ、卓球、囲碁、将棋、お話し合いなどそれぞれに希望の所で楽しみました。

私は卓球と将棋の両方に出ましたが、もっと時間が欲しかったなあ、と言うのが本音です。ととてもとても楽しくて来年が待ち遠しい思いです。

次に、全員でりんご狩り。試食・昼食のおにぎり弁当・りんご買い入れの同時進行。皆さん楽しい2日間、ありがとうございました。



大子温泉『やみぞ』旅行に参加して

日立市 尾沼友江

楽しい時間の何と早い事でしょう。

一日目の交流会で私は「病気の進行も気になるけれど腰痛の辛さ」を話しますと近くに来て腰痛体操を実践して下さいました。

また、「継続は力よ」と自主リハビリに挫折する私を励まして下さいました。また「入院している妻とまったく同じ症状です。痛み止め薬に頼らずリハビリをがんばりなさい」と云って下さいました。

そしてパーキンソン病の奥さんを長く見守っているYさん、童謡を歌い、童話を読み、両頬に手を当てて「また明日来るからな・・・」毎日毎日返事のない奥様を励まし続けているのです。慈愛に満ちたYさんの心に感動し、少しの間涙が止まりませんでした。

二日目のレクレーションに卓球

を楽しみました。

腰痛を忘れるほどでした。

それからりんご園で昼食をとり、りんごのお土産を買い求め、十二時三十分、来年の再会を約束し、Tさんの車で帰路に着きました。

行きも帰りも送って下さったTさん、来るときに車の中で気分が悪くなり迷惑をかけてしまった私に、太陽のような奥さんの明るさがとても嬉しかったのです。

私たちにとって仲間に会う事は生きていることを実感できる楽しい時間だと思いました。そしてたとえ体は不自由でも前に向かって生きて行ける、生きる力につながると信じたいです。

そう思った旅行でした。

みんな、みんな、ありがとうございました。



秋の一泊旅行に参加して

つくば市 蒲生 稔

一泊旅行の前日、体調が悪いと迷惑がかかると思い、支部長宅に電話をかけましたが、「大丈夫ですよ、出かけると決まると出かけられるものですよ」と言われましたが、まったくその通りで、何の事もなく大子まで運転できました。自信が付きましたので三年間帰っていない実家のある松本へ寒くなる前に帰ろうと思います。

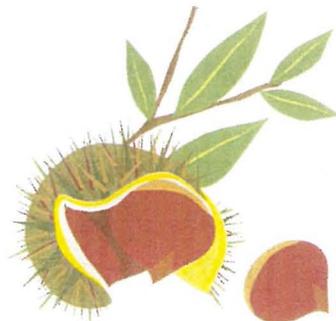
旅行で同じ病気の方々を見るのは来し方行く末を見る思いで不思議な気分になります。病歴の短い人の話を聞くと、そういう苦痛は乗り越えてきたのだと感じ、病歴の長い人の話を聞くと、これからも元気でいられるのだと、気分が明るくなります。

最近右足に不随意運動が出るようになってきましたが、不随意運動

の出ている方々を拝見していると、踊りを踊っているように見え、楽しくなっていました。夏の石下での県南地区の交流会で、吉田さんの不随意運動を見て大変なことだと思いましたが、今回グランドゴルフを仕切っていた吉田さんを見て不随意運動は自然に出てくる踊りだと思えるようになり、恐ろしくなくなりました。植本さんを見るも大変だと思うより、パーキンソン病を演じる俳優のように見えてしまいました。

パーキンソン病は病状が外に現れる病気だから、隠すのではなく、パーキンソン病を自然に演じている役者のように暮らしていくと楽しいのかなと思いました。

どうもありがとうございました。



平成 25 年度第 1 回県南地区交流会を開催して

龍ヶ崎市 植本純代

7 月 21 日（日）常総市石下福祉センターにおきまして 44 名の参加で開催しました。昨年行ったアンケートに交流会を今までと違った場所でも行ってほしいとの要望があり、二か所ほど会場を選んで、私たちの会の要望が入れてもらえるかどうか当たってみました。

1 か所は守谷市の中央公民館でした。ここは利用する人の住民が 7 割以上でないと言約ができないとのこと借りられませんでした。

もう 1 か所は常総市石下福祉センターです。一昨年常総保健所でのパーキンソン病の集まりに使われて、支部長と事務局長が招かれて伺っていました。お訪ねして受付の人にいろいろとお聞きしましたところ、利

用可能な日があつて、また保健所をお通しすると使用料も不要かもしれないとのことでしたので、早速常総保健所に話を通して使用料を無料にしてもらうようお願いしました。

一週間ほどしてから無料になったと連絡を受けました。

会場は 80 人ほど入る部屋をお借りしましたが、そこでは飲食が出来ないとのことでしたが、当日はとても暑い日で、熱中症になると困るのでペットボトルの飲物だけは OK してもらいました。主催者側として茶菓子が無くて楽でした。会費も少し安くできました。

交流会の内容は下記の通り行いました。

記

- | | |
|-------------|---|
| 10:00～11:20 | 自己紹介と現況のお話 |
| 11:20～11:30 | 広島県の鎌田俊三さんの作詞・作曲『パーキンソンを歌いながら』CDに合わせてみんなで歌う |
| 11:30～12:05 | 輪投げ |
| 12:10～12:50 | 昼食（地元のお弁当屋さんの物） |
| 12:50～13:00 | 記念撮影 |

13:00～15:00 体験発表

- ① 大久保幸市さん リハビリ入院をして
 - ② 松田さつきさん DBS手術をして
- 質疑応答

この頃、会員の皆様もお話が上手になられて、午前中は概ね 11 時 20 分に終わりました。その後 10 分間、広島県の鎌田俊三さんが作詞・作曲された『パーキンソングを歌いながら』をみんなで CD に合わせて歌いました。その後の予定は輪投げです。石下福祉センターでお借りすることが出来て、各自 2 回投げて合計点を出して 1 位から 3 位まで表彰しました。

結果は 1 位、篠塚敏満さん、2 位、福田さんの奥さん、3 位は額賀章好さんでした。3 人には心ばかりの賞品でした。その他の方はティッシュ 1 箱の参加賞です。忙しくてとても短い時間でしたが楽しめました。

それらが終わって昼食にしました。初めて利用する会場でしたので、石下福祉センターでお弁当屋さんを教えてもらい、頼みましたが美味しいお弁当でした。

午後の体験発表は大久保幸市さんのリハビリ入院をされてその後

のリハビリに向かう気持ちや、実行している話でした。リハビリは皆様とても関心があつて質問も多く出ました。リハビリ入院も皆様の関心の高い話でした。

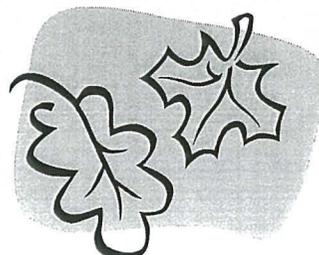
その後、松田さんに DBS 手術について話してもらいました。DBS の手術は難しい事で、余り質問はありませんでした。

3 時近くなり質問がなくなりましたので終わりにしました。

最後になりましたが、難病支援センターから直井和子さんが参加して下さり、折々にお話頂きました。また手伝いする人の少ない中、直井さんにお手伝い頂き本当に助かりました。

楽しい 1 日が無事に終わりました。お手伝いを頂いた方や皆様のご協力のお陰様でした。

尚、大久保さん・松田さんの体験発表はこの支部だよりに掲載致します。



記念撮影と交流会風景



《体験発表》

病歴 11 年とリハビリ入院の事

つくば市 大久保幸市

私は平成 14 年 6 月にパーキンソン病と診断されました。その前からパーキンソンの症状が出ていたもので、病歴は現在で 11 年半くらいでしょうか。

病名が告げられるまでは、大した病気ではないと思っていましたが、とんでもない病気で全治した人はまだいないそうです。iPS 細胞治療

を期待しています。しかし悔んでばかりいても仕方ありませんので、沢山の人の話を聞いたり、先生の話やパーキンソン病友の会県南地区の交流会など患者同志の話を参考に、全身を動かすことを基本に一週間のスケジュールを組んで過ごしております。時には変更もありますが次の通りです。

月曜日 : 何をして過ごしてもよい。畑仕事を中心になっています。

火曜日 : AM 囲碁を教えてもらっています。頭のリハビリ。
PM 桜ニュータウンの公民館で卓球、去年頃から病気が進み 2 回転んだので今は休んでいます。
体の調子が良くなってきたので再開しようと思っています。友人の会社の事務所の脇に卓球台があり使っていると言われていました。

水曜日 : デイケア、
AM 水中歩行訓練。浮力を利用してストレッチ。筋トレで筋肉と関節を柔軟にしています。
PM 体操、歌、口腔リハビリを行い気持ちが明るくなります。

木曜日 : デイケア、
カラオケ、マッサージ 風呂（炭酸泉）第 2、第 4 週の 4 時 30 分からハーモニカの練習、自宅でリハビリ。

金曜日 : デイケア、
AM 水中歩行訓練。

PM 自分で行うパーキンソン病運動。

土曜日 : AM 自由 (外出で身体を動かす事が多い)。
PM ながみねで将棋。

日曜日 : AM 家でTV将棋を見るか、桜ニュータウン公民館で
囲碁を教えてもらう。

このような一週間のスケジュールを組んで活動力の維持をモットーに取り組んで過ごしていましたが、昨年あたりから病気が進んでいるように感じてきました。

つくば大学附属病院の主治医の渡辺先生に相談したところ茨城県立医療大学附属病院を紹介してください6月11日にリハビリ入院。7月16日退院。

その間、土・日・祭日は休みでしたがそれ以外の日はリハビリ専門です。

私が受けたその内容は、PT、理学療法、身体全体の機能回復のリハビリ、

OT、作業療法、日常生活がスムーズにできるようにリハビリ、

CP 臨床療法、心の支えになってくれる話、

これらを組み合わせて、1日3つから4つの指導を受けます。1つのリハビリは約1時間弱です。1日に3時間も筋肉、関節を療法士さんの力を借りて、大きく、早く、柔軟に動かしました。その結果、関節の広

がり、筋肉の柔軟さと、食事のコントロールによる体重の減少で自分では、2年ぐらい前の体にもどったような気がします。

ちなみに、薬の事はやかましく、何度も忘れずに飲むように言われました。現在のんでいる薬は、メネシット100mg、1日4錠、ミラベックスLA1.5mg、1日3錠、エプピーOD錠、2.5mg、1日2錠、

そして、私は常に体を動かすことをモットーに、毎日朝起きた時にベッドの上で、腹筋運動を15~30回行います。これはベッドから起き上がるのに役立ちます。また寝返りも出来るようになりました。開脚5分、スクワット50~100回、腕立て伏せ10回、鉄アレイ3kg、片手に1個ずつ両手で2個持ち、上に15回と前から胸に15回を持ち上げ、そして医療大附属病院で教わったパーキンソン体操を日課にしています。

皆さん、体を大事に生きましょう。

《体験発表》

私のパーキンソン病歴

取手市 松田さつき

「今度の県南地区の交流会で体験談を話して下さい」と支部長より依頼があり、いつものように、軽く「いいですよ」と引き受けた私。まず病歴の年表をつくってみました。そして案外、みなさんに話すほどの体験はしていないこと、進行も遅いことなどに気付きましたが時すでに遅し、断ることもできず、拙い発表をすることになりました。以下、発表の元となった病歴についての原稿を年表風にまとめてみました。

◆ 39歳 右手の振戦からスタート

(1991年)

2度目の診断で「P病」と診断された。
初めの約10年間（39歳から50歳まで）
主な症状 右手の振戦、進行は、かなり遅い
ほう。
↓
仕事続けていた。

1日アーテン1錠を3回
パーロデル1錠を3回
メネシット1錠を3回

45歳 確実に進行、薬は効き目が薄れ、飲んでも、 全く振戦が消えることはなかった。

仕事で行事、イベントがある時は、普段より
多めの薬を飲んで参加。 下は追加の薬、

1日アーテン2錠を3回、
パーロデル2錠を3回、
メネシット1錠を3回

アーテン2錠 パーロデル2錠
メネシット2錠増やす

副作用に苦しむ

アーテンなど8錠の時は、睡魔が襲ってきて、車の運転中に一瞬眠ってしまい、気が付いた時は反対車線、それも国道6号で。今思い出してもゾーとする。

その日によって効き始める時間が違う。行事の時には、いつも効き始める時間をさかのぼって薬を飲むのだが、その時間になっても、いっこうに効かず、ロッカールームに逃げ込み、さらに薬を追加して服用。

そうだ
DBS
を受け
よう

◆ 50歳

(2002年)

毎年、表面的には、薬を増やすことによって、病気を隠し、健康を装っていたが、内心、今年は、どこまで進むのか、まだ仕事を続けることができるのか、薬の副作用は・・・心配のみ膨らんだ。

DBS手術を受ける決心をする

(2002年) 都立神経病院 武蔵野線で片道2時間 少々きつかった。

▼5月 検査入院2週間 11月20日 DBS予約

▼入院1日目(11月11日) 入院(脳神経外科)

DBS手術に向けて

▼入院2日目、7時にカンファランス

「今一番困っていることは？」 「今、薬は何をどれくらい？」

「歩いてみて」 「指を動かして」 「どんな時、一番ふるえるか？」

医師たちの議論の中心は、右手の振戦だけが、今出ている症状なのか、薬が効いていない時は、どのくらい進行しているのかという点であるらしい。振戦のみならば、視床に刺激を入れた方が有効であるが、視床下核の方がP病全体の症状に有効であるとのこと。だから、これから、進行した時のためにも、まずは、視床下核に刺激を挿入して、効果が無ければ視床に入れ替える事に決定。

薬が切れた状態を知りたいので明日から服用しないで症状を観察する。。

▼入院3日目、インフォームドコンセント

家族も同席して手術について、医師から話を聞く。丁寧な説明で、手術に伴う危険性、成功率、回復まで。その後の治療法、また手術以外の選択肢について等いろいろと話してくれた。

▼入院4日目、薬を止める。どうなるか、

右手の振戦はひどく、まるで私とは別の人格を持った生き物のように、私の意志と関係なく動きだす。

▼入院8日目、(薬を止めて4日目の朝)

振幅20~30cmあるのではと思うくらいの振戦、9時過ぎに薬を飲む許可がおりる

薬が効いていない時の状態は、右手振戦と左は歩く時、腕の振りが無い事や動きがやや緩慢になるところから寡動、筋固縮らしいことがわかった。

▼入院9日目、(手術の前日)、床屋さんが現れ髪を切る。

明日に向けて、再び、薬をストップする。

▼入院10日目、DBS手術当日 (11月20日 9:00開始)

- ① 手術室 頭を固定するためにフレームを装着する。
- ② MRI室 視床下核の位置を確認するために、撮影をする。
- ③ 手術室 頭蓋骨に穴を開け電極を挿入、ドリルの音不気味
- ④ 電極挿入の位置が右手の振戦に有効であることを確認するため、まずは計算させたり、早口言葉を言わせたりして振戦を起こして刺激を

あたえ位置を決める。つまり手術は局所麻酔

⑤ 最後にCTで位置を確認。・・・終了（16:00）

- ▼一週間 頭痛に悩まされた。脳は、水に浸かった豆腐のようなもので、手術をすることによって、水が外に出るために頭痛がするらしい。頭を下にすると痛いのでなるべく下に向けないように過ごした。
- ▼入院15日目（11月25日）、全身麻酔にて、刺激装置埋め込み術を行う。全身麻酔の為、自分がどのように手術をされたのか、さっぱりわからない。電極と発生器がどのように繋がっているのか、不思議でたまらない。
- ▼入院17日目（11月27日）、右手にジスキネジア現れる。薬を減らす。手術後一週間経った。ハイ状態・・・とにかくよく笑った。

アーテン1錠を3回、パーロデル2錠を3回 メネシット1錠を3回
メネシット1錠を3回

▼入院21日目（12月1日）

アーテン1錠3回、パーロデル1錠3回、メネシット半錠3回

- ▼入院22日目（12月2日）頭と胸、同時に抜糸。以後ハイ状態は1カ月続いたような気がする。
- ▼入院23日目（12月4日）神経内科に引っ越しをする。
- ▼入院33日目（12月14日）退院 その時処方された薬

メネシット 1錠
アーテン 1錠、
パーロデル 1錠
朝夕2回 自分で管理することのこと
電圧 2.4V

☆DBSが成功したことを「明るく生きるパーキンソン病患者のホームページ」の掲示板にハイ状態のままメール投稿、それが石川県女医で患者のOさんの目にとまり、色々な会にさそっていただき、交友関係が広がった。

2003年

- ▼2月機械調整 右腕にジスキネジア 刺激の効き過ぎとのこと、**2.0V**に落とす。
- ▼3月機械調整 **2.2V**の刺激に調節、薬は、飲まなくても、支障をきたす事はないが、不安なので、

メネシット半錠、アーテン1錠 パーロデル1錠を朝1回のみの服用

2005年

- ▼4月機械調整 **2.2V**
12月2日 突然の電池切れ・・・6年持つと言われていたのに？
交換手術

2週間の入院

2006年 退職

- ▼ 3月 障害年金 共済障害年金2級になれば国民年金ももらえる。パーキンソン病は進行性なので「増進請求」ができる。昨年3級14号取っていたが現職の間はもらえないとのこと、退職にあたって再度主治医に「診断書」を書いてもらい提出。しかし、半年近く待たされて変更なしの返事がくる。「疑義解釈願」を出し「2級15級」と認められる。周りの助言通り最後まであきらめず行う事を学んだ。

2011年 Oさんの推薦で友の会全国版会報誌の編集委員になり今に至る。
秋

2012年

- ▼ 3月 2回目電池交換（竜ヶ崎済生会病院）
現在の薬

メネシット4錠、トレリーフ1錠、ミラペックスL A1.5mg 1錠

現在の私（病歴22年）

私にとって、DBSを片方しか受けていないということは致命的弱点、色々な面でバランスが悪い。不都合な点がでてくる。しかし、今は情報がいろいろと飛び交っていて軽はずみにDBSは受けられない。と言うことでiPSが実用化されるのを待っています。

もう一つ付け加えておきます。もう片方のDBSを勧められた時に10年前と機械は、改良されたのか、患者の負担は、軽くなったのか、当時の主治医に聞いたところ、それほど変わらないとのことでした。しかし、今は両側1回の手術でやってしまうとのこと、3週間の入院ですむらしいです。入院期間が短いということは、患者の負担も軽くなったという事です。もし、最近県内でも、経験なさった方がいらっしゃればお話聞かせていただければ幸いです。



DBSについて

DBSとは細い針を使って脳に電極（リード）を埋め込み、電気的な刺激（パルス発生器）で症状を改善させる治療です。手術後は、刺激条件の調整や一定年月ごとに電池交換が必要となります。

（パーキンソン病情報誌『とりふる』No.5 藤本健一先生の言葉から）

*薬は抗パーキンソン病薬のみ記入、補助治療薬は省略してあります。

誌上作品展のご案内

今年の作品は多くはありませんが、いつものように素晴らしい作品が揃いました。三年前から毎年秋の支部だよりで掲載しています。

会員の皆様の日頃の作品があれば写真に撮るか、現物を送って頂きますと、写真をとってお返し致します。(あまり大きい場合は困りますが・・・)

どうか来年に向けて趣味の作品提出にご協力下さい。

作 品	住 所	氏 名
☆ 短歌	笠間市	愛子
☆ 写真	古河市	阿部由美子
☆ 自由詩	日立市	友江
☆ 書	坂東市	篠塚敏満
☆ 紙粘土細工	取手市	松田さつき
☆ 切り絵	水戸市	宮部知克

事務局からのお知らせ

今年は急に寒くなりましたので、体調にお気を付け下さい。

11月11日に全国会報に折り込んで請願用紙2種類4枚を入れました。10名の方に署名いただきますと衆・参両議院議長に提出出来ますのでお願い致します。これは毎年全国パーキンソン病友の会(JPDA)と日本難病・疾病団体協議会(JPA)の2種類です。ご面倒とは存じますが、厚生労働省が難病の見直しを行っていただきますのでより多くの署名を集めたいと思っています。募金も一人でも多くの方にお願ひしたく思います。

来年の総会の講演会講師は iPS 細胞で外科手術を行う『高橋淳』先生をお招きすることが出来ました。お楽しみにして下さい。

誌上作品展

《短歌》

笠間市

愛子

野の花を瓶に移せど今更に水揚難し野草と知れり

仏壇へ秋の花花供へたり心安らぐ今日のスタート

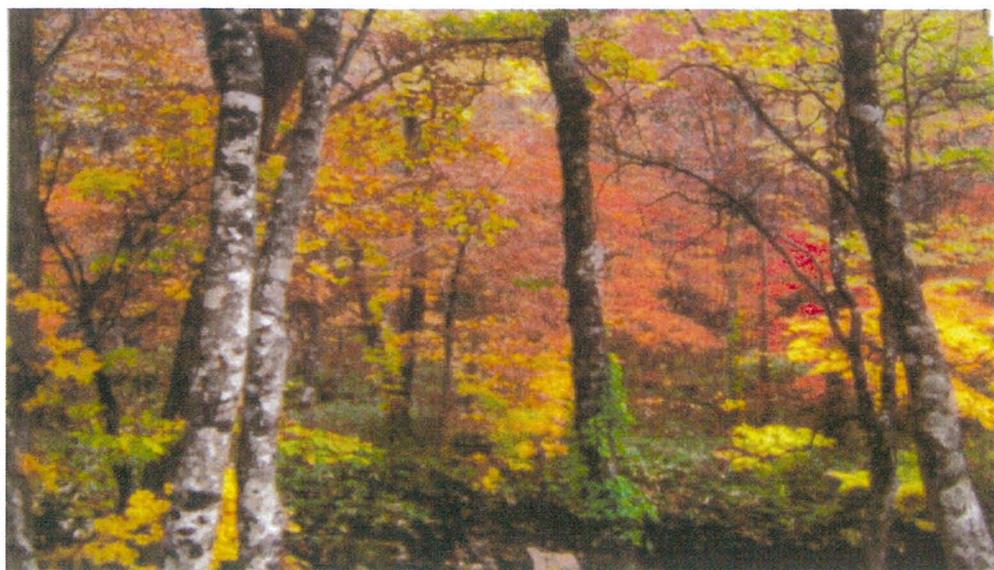
台風にあほられ岸辺の彼岸花並べて傾りになだ一列にあり

吹き寄せの紅葉の数多秋の日の熊手の間あはひ溢れこぼるる

誌上作品展

《写真》

古河市 阿部由美子



裏磐梯

風 (そと今)

日守市 友江

暗いところの中から
かすかに見える光に向へ
電車は今日も走り続ける

歌をうたおう
泣きぬれよう
そと友を思おう
ニビリをうたおう

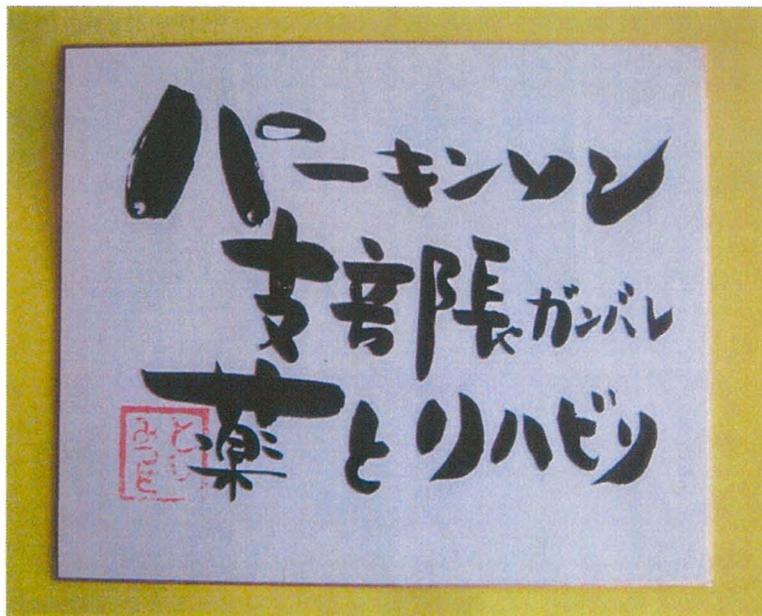
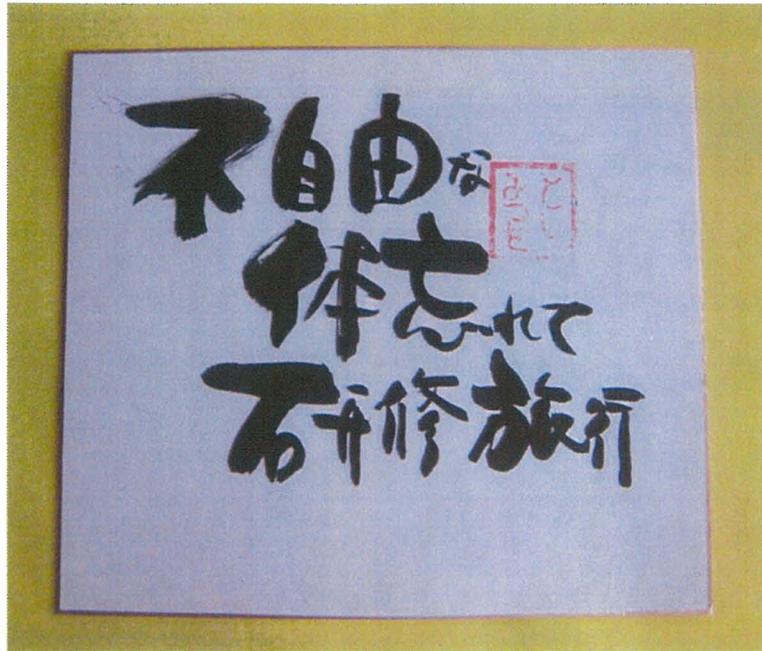
風は木の葉をふるわすから
新しい季節を感じよう
希望をもつ前向きに
歩き続けよう
風の中を歩こう
秋は今を歩かせる

誌上作品展

《書》

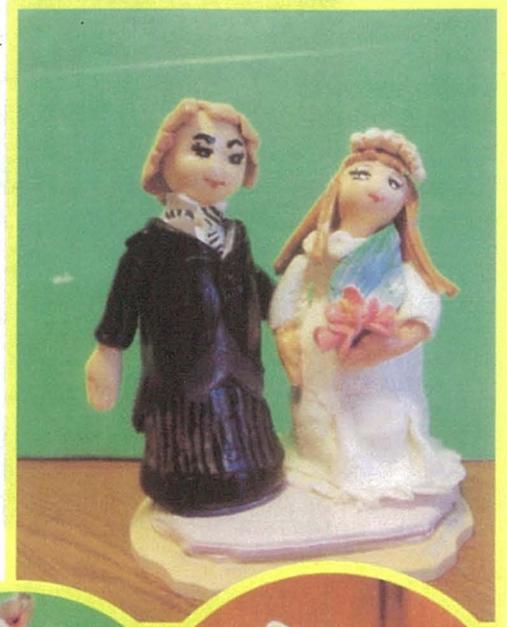
坂東市

篠塚敏満



WEDDING DOLL

取手市 松田さつき



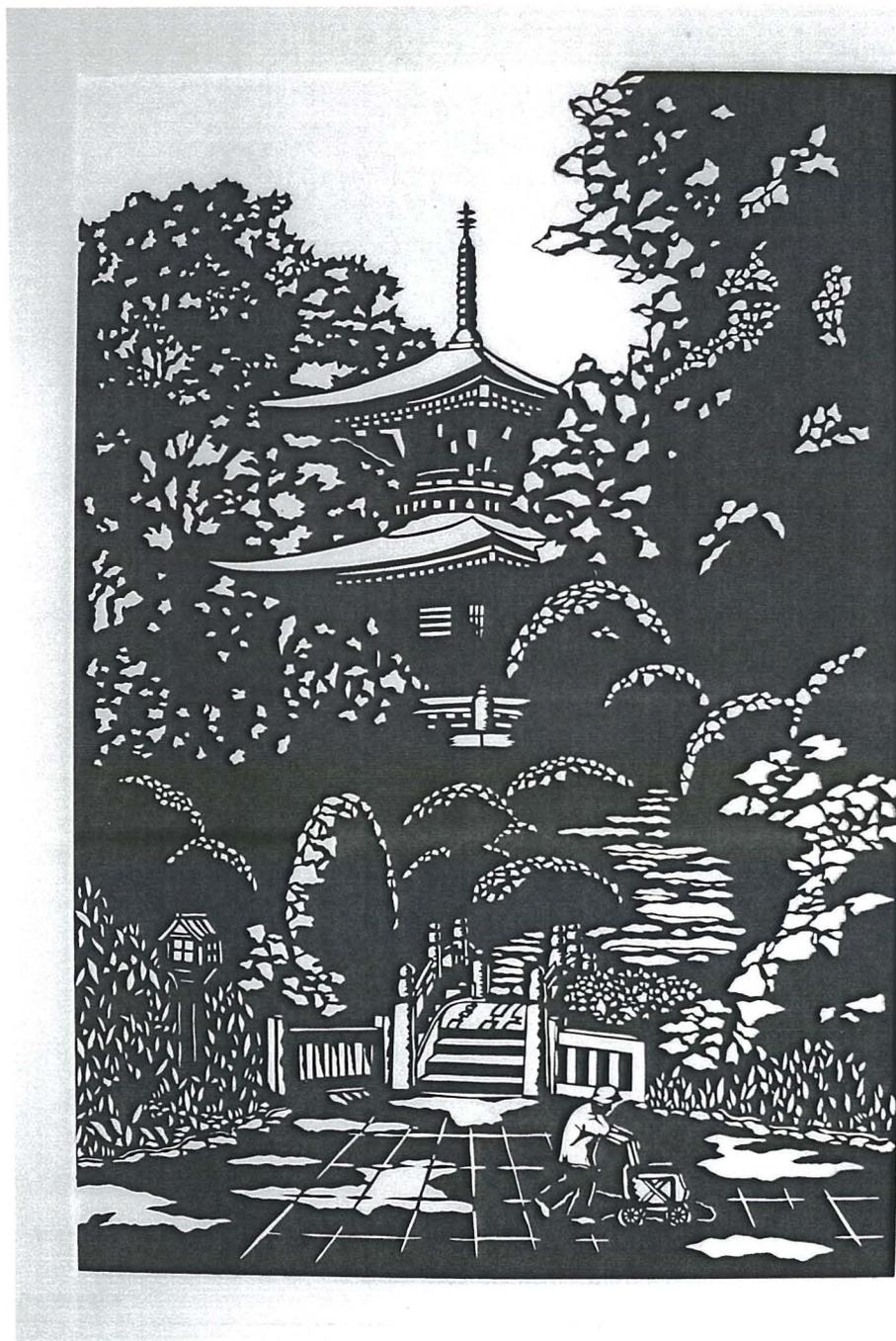
息子の結婚式に2人の幸せを願ってウエディングドール、披露宴のお客様には、紙粘土で招き猫を作ってプレゼントしました。

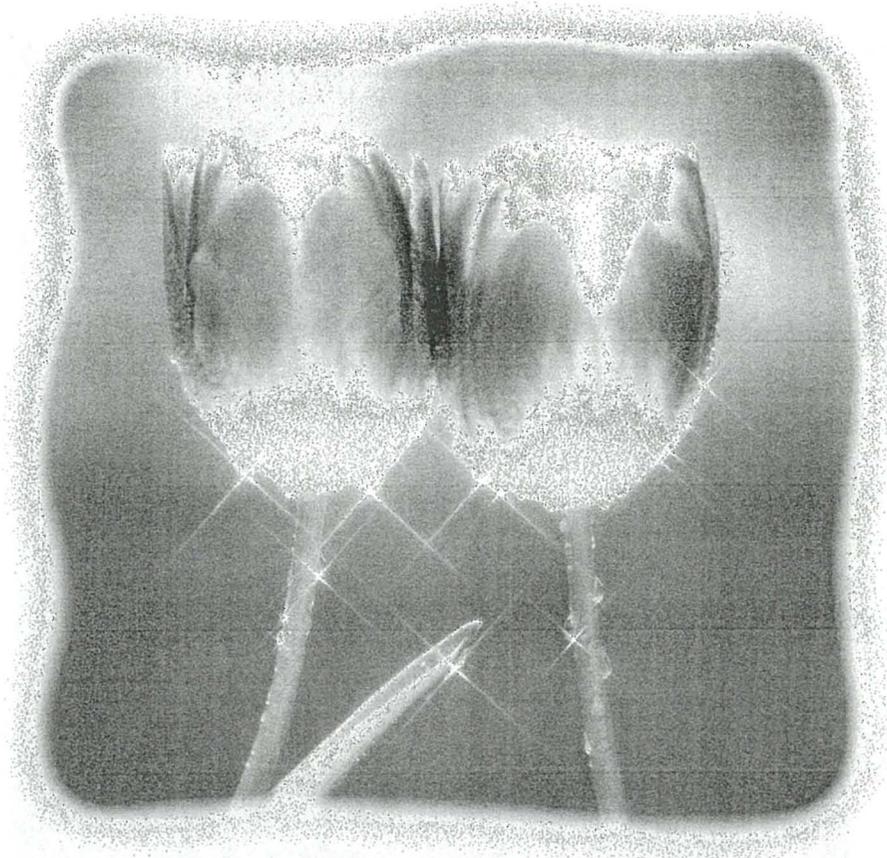
誌上作品展

《切り絵》

『聖典山・平和の塔』

水戸市 宮部知克





患者さんのために
信頼と愛がいっぱいだった

藤本製薬グループ

エフピー

株式会社

【お問い合わせ先】

〒580-0011 大阪府松原市西大塚1丁目3番40号

TEL:0120-545-427 FAX:0120-728-093

URL:<http://www.fp-pharm.co.jp/>

平成23年5月作成



家族の
気持ちに、
新しい薬で
こたえたい。

あなたのからだを、気遣う。

あなたのこれからを、気遣う。

そんな家族の気持ちと同じ思いを胸に、

私たちは、新薬の研究に取り組んでいます。

必要な薬を、必要になるかもしれない薬を、

いち早く準備し、安心と共にお届けできること。

今も、ずっと先も、

あなたとあなたの家族を支える力になる。

それが私たちの薬づくりです。



大日本住友製薬

www.ds-pharma.co.jp

1971年8月7日第3種郵便物認可(毎月6回)1の日、6の日
2013年11月25日発行SSKA増刊通巻8102号

編集後記

現在厚生労働省で難病の支援が56疾患から300疾患に増やすようになりますので、今までと同じ方法では対処できないと思われます。

会員の皆様も新聞・テレビ・ラジオのニュースに関心を持って頂きたいと思います。

会員の皆様の体験記、自分史、生活の工夫、苦言、要望などまた、詩、短歌、俳句、川柳、書道、切り絵、その他の作品、料理レシピなどを募集しています。

会報を発表の場としてご利用下さい。尚、メールを使用されている方はメールでお願いします。(アドレスは表紙にあります)

編集者 全国パーキンソン病友の会茨城県支部

〒301-0856 龍ヶ崎市貝原塚町3552-6

TEL&FAX 0297-64-3546

発行者 特定非営利活動法人・障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧6丁目26-21

TEL 03-3416-1698 FAX 03-3416-3129

頒 価 500円